

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100762		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム もくれん ユニット名(東館)		
所在地	小美玉市川戸1425-14		
自己評価作成日	令和 4 年 5 月 24 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 11 月 24 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=0873100762-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々が気軽に出入りしやすいような、玄関先やロビーなどの雰囲気作りを大切にしています。自然環境に恵まれた中で、その時々季節を感じ その人らしさを大切に 安心して生活出来る楽しみ事を中心にした介護を行っています。

事業所は茨城空港の近隣で、自然豊かで、四季の変化が身近に感じられる場所に立地している。母体法人は24時間対応の医療施設であり、利用者、家族等の安心を得ている。職員のコミュニケーションが良く、清潔で明るい雰囲気でも過ごせるように支援している。調理担当者が配置され、地元産米を使用するなど、食事が美味しいと好評をえている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念作成して 各ユニットごとに見やすい場所に掲示し 更なる実践につなげている	法人の理念の他に事業所独自の理念を職員全員で考えて作成し、常に意識づけを行っている。利用者によさしく常に笑顔で共に日々過ごせるよう理念に沿ったサービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とのつながり 交流を大切にしている 行事や消防訓練等への参加も参加してもらえるようになっていく。コロナ禍にて現在は もくれん独自の消防訓練体制で行っている。	コロナ禍で中断しているが、ボランティアの受入れや小学生の訪問、中学生の体験学習などを行っていた。地域の清掃活動には職員が参加して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣への外出や買い物などで認知症の方たちへの理解を深めてもらい利用するにあたって協力も得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて書面での報告や感染状況を見ながらの開催となっており、議事録作成し提出している。	家族等の代表や市職員、民生委員、他施設の施設長などが参加して定期的に開催しているが、コロナ禍の為状況を見ながらとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や市役所への来訪時などを利用して短い時間での相談が出来るようにしています。	介護保険更新等で窓口を訪問したり、運営上の困りごと、介護保険改正時の問い合わせを法人本部を通じて重層的に行い、助言を得るなど良好な関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けての会議を職員や管理者などで定期的実施している。身体拘束の弊害を認識し共通の意識を持つようになっている。	身体拘束排除のための委員会を設置している。排除に関するマニュアルはあるが定期的な研修を行うまでには至っていない。	身体拘束に関する全体研修を実施し、研修記録を作成することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしない。施設内での虐待もまた、見過ごされることのないよう徹底し防止に、努めている。研修に参加が出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には 制度の内容についてことあるごとに説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な時間と契約書に添っての説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自由ノート、意見箱を玄関横に設け 意見・要望など気が付いた点を気軽に記入してもらえるよう 面会等に声掛けしている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談窓口を明示している。各居室に自由ノートを置いている。意見についてできるものについては即対応に努め、解決できない意見は法人本部に報告し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案などを気軽に話が出来ようこちからの声掛けや機会を作るようにしている	普段から何でも話せる関係が築かれている。コロナ禍で外出ができないため、レクリエーションの多様化に提案があり、取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体病院側で全て行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の研修を受講できるよう人員のやりくりをし 介護技術や質の向上となるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話での会話や相談入れて交流を図っている。インターネットへの回線申し込みされていないため、交流は、行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	知らない所での生活の不安は、想像以上のものかと思われます。心配事や要望に耳を傾け信頼関係が築かれるよう努力している 情報提供書や家族などから直接情報を得るようにしている(趣味・好物・職業)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の契約は、丁寧に説明をしています。家族からの要望・困りごとなどをよく聞き何かあれば気軽に話してもらえる雰囲気作りを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や職員の研修を受講できるよう人員のやりくりをし 介護技術や質の向上となるよう取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は 本人と苦楽を共にし、一緒に暮らし支え合いながら関係を深めていけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にしながら、気軽に面会に来てもらえるよう働きかけている。 (現在は、コロナ禍により面会がドアやガラス越しとなっている。)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや友人たちの面会場所との関係が継続出来るよう支援している	入居前の相談や入居時の聞き取り調査、関係者へのヒアリングを通じて、人間関係の把握に努めている。友人の来訪や電話の取次ぎ等で関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人同士、ひとり一人が孤立せずとこところに長椅子を置き話やようにしている。職員も気軽に声掛けでき、相談できる場所作りとなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、今までと変わらず 電話や近くに来た際には、立ち寄ってもらえるような関係作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの特徴や生い立ちなどをよく把握し、入居者のペースに添って見守りながら一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援していきます。、居室でのんびり語り合う方と過ごし方は、様々である。	日々の支援の中で、言葉や仕草から新たな思いや、要望等の把握に努めている。得られた情報を職員間で共有するまでには至っていない。	新たに得られた情報を職員で共有化出来るシステムの構築を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや 生活環境、サービス利用など家族、本人、情報提供書などから把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方 心身の健康状態 有する力などの現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や本人、家族とで意見交換し本人の望む暮らしとなるよう 介護計画を作成している	家族等や本人の意向を聞き、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、必要があれば見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事などを ケース記録に記入し 職員間でこの情報を共有しながら実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や訴えをよく聞き 必要に応じて支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々との行き来も今は、出来ていない。コロナが終息し笑い声が聞こえてくるような 安心・安全な暮らしが出来るよう願っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に 今まで同様のかかりつけ医の受診が受けられる様支援している 本人の体調等考慮して、訪問診療受診支援も行っている	契約時にこれまでのかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。協力医療機関が24時間対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で 情報や気づき、状態の変化など外来受診時や訪問看護師に伝え相談している 利用者の方が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院との情報交換、連絡を密にとり 安心して治療が受けられる様病院側との関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際、家族の方と十分な話し合いを行い説明している	「重度化・看取りに関する説明及び同意書」がある。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な同意を行っている。重度化についてのマニュアルを作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は 初期対応や場合によっては応急処置がとれるよう訓練を入れ実践につなげている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している（夜間体制・地震災害訓練）近隣の方々の参加は、コロナ禍にて中止している	夜間や地震を想定した避難訓練を行い、訓練後は次回に向けた課題について話し合っている。災害に備えて備蓄品を管理している。近隣住民の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆったりとした時間の中で、ひとり一人の人格を傷つけない言葉かけに気を付け 個々の自由な時間も確保できるよう対応している	利用者の尊厳に配慮した言葉遣いに努めている。個人情報に関する同意書が肖像権について選択できないものとなっている。	肖像権に関して、広報誌に記載、事業所内掲示等、項目別の確認できる書式の検討を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人それぞれが自分の思いや希望を表すことが出来るよう、時間をゆっくり取り せかすことなく待つことの大切さを心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの特徴を把握し 入居者のペースに添って見守りながら一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回床屋さんが入っています ヘアスタイルも服装も好みのものとなっているおしゃれを楽しめるよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けを一緒にしたり 毎日の献立表も見やすい所に掲示している 近所さんからの野菜の頂きものをみんなで下ごしらえし 季節の物を食べることで食事が楽しいものとなるよう工夫している	自家菜園の野菜を食材として献立に取り入れたり、利用者の好みに合わせた食事を提供している。季節ごとの行事食や外食の代わりにテイクアウトを利用した食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表や食事・水分表などにて記録し把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後のうがい、歯磨きを行っています できない方への声掛け介助が入っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくおむつをしない方向でを目標にしている 排泄パターン 定時でのトイレ誘導や兆候を見逃さないよう見守るとともに 自立に向けての支援をしている 夜間のポータブルトイレ使用も導入している	利用者の排泄パターンを把握し誘導して、夜間も含めてトイレでの排泄に努めている。トイレでの支援により排泄状況が改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に配慮して 水分量 食事の工夫や便器に座ってもらうことを習慣づけていく 場合によっては 下剤を使用することもあります		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は 職員の都合になっている 体調が悪かったり、外出で入れない場合は、翌日の入浴となるよう配慮している	入浴は基本週2回となっているが、利用者の意向に合わせていつでも入れるよう支援している。入浴が楽しみとなるよう季節の湯を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムづくりでボール投げやラジオ体操、散歩など活動の場を設けている 少しい時間ではあるが 午睡タイムで気分良く寝られる様支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートは 事務所でいつでも見ることができる薬の目的や用法・用量についても理解し服薬の支援と症状の変化にも注意を払っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族などから昔の事を聞いたりして その人が生き生きと喜びのある生活が出来るよう引き出している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の面会は、現在中止となっています。家族との外出や病院受診などは、感染対策をしっかりと 外出が出来るよう支援していく	コロナ禍で散歩や買物等の外出を控えているが、広い敷地内の散歩を通じて、作物の成長、季節の風などを通じて、四季の変化を感じられるよう配慮している。終息後は再開予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は 本人の希望や力量に応じて行っている 職員は 買物する楽しさ レジでの精算などがいかに大切かを理解している。コロナ感染が落ち着かない様子であるが、今は、自動販売機や1回/2Wのヤクルト販売も利用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話は自由に使うことができる 年賀状や友人への手紙の投函や各棟の固定電話の取次ぎや掛けるときの支援も行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関スペースもゆったりとした雰囲気作りとなっている 玄関フロアには 懐かしい杵やうすなどを置き心穏やかに居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関には季節の花や観葉植物、古い農機具が展示されたり、公衆電話や自販機が設置され、家族等との面会の場になっている。清掃が行き届き、冷暖房、湿度管理がされた快適な空間になっている。居間兼食堂には小上がりの畳の部屋や長椅子が設置され、利用者同士の語らいに場所になっている。居室は掃き出し窓になっており、開放的な居住空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーや玄関先に長椅子やベンチ、テーブルを置いている 他の方々との交流もあり自由に過ごせる時間、居場所づくりの工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の愛着のあるものだったり、近所の商店のカレンダーを居室に飾ったりして安心して暮らせるように居室に配慮をしている 好きな花を中庭で育てたり、居室で植物を育てている方もいる	利用者や家族等に使い慣れたもの、馴染みのものを持参し、自宅同様に過ごせるように説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたむ人 テーブル拭き ゴミ箱折などそれぞれが出来ることへの出番、楽しみ事を見出している		

(別紙4(2))

目標達成計画

施設名 グループホームもくれん

作成日 令和 4 年 11 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束に関する全体研修が出来ていない。	内部研修を一年間の目標に入れていく	運営推進会議などの後に内部研修を入れ まずは、職員から色々な意見を出してもらい話し合っていく 職員の会議への参加が大切です	6
2	9	新たに得られた情報を職員で共有化出来ない	新たに得られた情報を職員で共有化できるシステムを築いていく	日々の関わりの中で新たに得られた情報を付箋シールやメモなどにより気づいた事を書きとめて皆で共有していく	3
3	14	個人情報に関する同意書が肖像権について選択できないものとなっている	肖像権についても選択出来るようにする	書類の作成を始めています。	1
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。